

議会広報特別委員会 その1

行政視察・研修会報告

住民視点の広報誌づくりへ



議会広報研修会を受講する委員たち

令和5年4月から、議会広報特別委員会は、委員長をはじめ新しいメンバーでスタートした。中でも新人議員を含め初めての広報委員が5人と多く、たいへん貴重な視察・研修会となった。

住民視点で、手に取って読んでもらえる議会だよりを創るために、この経験を活かして、新しい委員の新しいアイデアを取り入れながら、より一層読んでもらえる広報誌にしてい

8月9日(水)

愛知県町村議会
研修会



金ヶ崎町議会だより

名古屋市中区丸の内アイリス愛知において午後1時から4時まで、県内から28市町村の議会広報に係わる議員と議会事務局関係者が参加した。

講師は議会広報パートナーの芳野政明氏で、「住民に読まれ、伝わり、議会の見える化へ」と題し、広報の基本と編集についての講演があった。

本町の議会だよりに対するクリニックでは、レイアウトへの指摘や隙間の使い方に工夫が必要ではと指導をいただいた。

8月24日(木)

岩手県金ヶ崎町
議会視察研修

18年連続受賞を続けている、岩手県金ヶ崎町の議会広報誌の創り方を学ぼうと、現地に赴いた。

幸田町議会広報特別委員会は、5年前にも訪れている。

それは、議会広報誌の編集方針と記事の内容がとても参考になるからである。

まず、表紙は子どもが宝という金ヶ崎町のこだわりを象徴しているように、毎号双子の写真を掲載し、町のみなさまの心を掴んでい

ることがよく分かる。編集のモットーである、ありのままに解りやすくを前面に出し、議会広報編集の12か条の方針を決め、それに沿った広報誌創りをしている。

他市町からの視察が多い事は当然で、機会があればまた訪れてみたいと思う。

8月25日(金)

令和5年町村議会
広報クリニック

東京千代田区の全国町村議員会館で開催。

講師はグラフィックデザイナーの長岡光弘氏で、本町の議会だより188号で、丁寧な指導をして頂いた。

本町は第1分科会10町2村の12自治体の中で、住民視点の広報誌であるための講演と、各自治体のクリニックを受けた。



本町の議会広報誌で講義する様子

初めての行政視察・研修会に参加して

新人委員の声



岩本委員

購読率30%から80%を目指して

岩本知帆 委員

議会の活動内容が児童・生徒からご年配の方まで、幅広い年代に届く議会広報になるよう、視察で学んだことを活かしSNSを活用します。

また、みなさんが参加する広報作り・議員と双方向でつなぎ、購読率を80%に。幸田町議会の見える化を目指します。

議会広報行政視察に参加して

吉本智明 委員



吉本委員

議会広報編集委員に就任して4か月、編集のイロハもよく理解できていない状態で参加した研修でしたが、金ケ崎は広報コンクールで受賞の常連であり、編集モットーの、ありのままに解りやすく、議員の力で、スピード発行とあり、実際に見て分かりやすく、素晴らしい広報誌だと感心させられ、とても参考になりました。

優秀議会広報の行政視察をして

長谷川進 委員



長谷川委員

新人の議会広報特別委員として、全国でも有名な議会広報誌の金ケ崎町を視察し、多くの気付きと広報委員の熱意に感動した。

優秀な広報こそ読者の気持ちになって、専門用語を使わない、色使いもシンプルが見やすく、読みたくなることに繋がると理解した。今回学んだ事を、議会広報作成に展開を図って行く。

タネも仕掛けもある議会広報誌

藤本和美 委員



藤本委員

広報誌の作り方の一つとして、決まったやり方にこだわることなく、常に新しい手法やデザインに挑戦し、ユーザーも忘れないことを教わりました。

講師からの、「読まない広報誌は発行する意味がない」この言葉を胸に刻み、議会広報誌に少しずつ変化となるスパイスを加え、読みやすい紙面作り挑戦します。

初めて視察研修に参加して

野坂純子 委員



野坂委員

初めて、遠方の岩手県金ケ崎町議会の広報作りの研修に参加しました。金ケ崎町は全国318町村議会の広報コンクールで、何度も入選。視覚的な要素を活かし、短い文を使い、誰もが読みやすく、理解しやすいものを作る努力を長い間続けて来られたことに、感動しました。

また、2日間同行する中で、他の議員さんたちの良いところをいっぱい発見でき、より団結して良い広報作り、つなげて参ります。